様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 ２９ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2010～2013
課題番号：２２７２００２５

研究課題名（和文）メソポタミアにおけるマルドゥク神のシュメル語バラグ祈祷の文献学的・宗教史学的研究

研究課題名（英文）Sumerian Balag-prayers to Marduk in Mesopotamia

研究代表者
柴田　大輔（SHIBATA, Daisuke）

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：４０５５３２９３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,400,000円、（間接経費）　1,020,000円

研究成果の概要（和文）：　収集した粘土板写本に基づき、祈祷文を校訂した。26年度以降に単行本として出版する予定である。また、校訂した祈祷文をはじめとする楔形文字諸資料をもとに古代メソポタミア宗教史に関する個別課題に取り組み、その成果を国内外の学術会議等において口頭発表するとともに、複数の欧語論文に整理した。特筆すべき成果として（１）祈祷文編纂とその政治・宗教史的背景に関する研究、（２）シュメル語・アッカド語バイリンガリズムと政治・神学に関する研究、（３）祭儀プログラムに関する研究、（４）祭儀暦に関する研究、（５）都市と守護神に関する研究があげられる。

研究成果の概要（英文）：For this current project I focused on the following issues: 1) an editorial history of prayer and its politico-religious implications, 2) Sumero-Akkadian bilingualism and their political theology in the second and first Millennia B.C., 3) Babylo-Assyrian cultic programs and calendars, and 4) Babylo-Assyrian city-gods. The findings and analysis of these studies have been presented at several international conferences. They have also been published in peer-reviewed journals and as book chapters.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、宗教学

キーワード：宗教史

１．研究開始当初の背景

（１）古代メソポタミア世界に由来する多種多様な楔形文字粘土板文書の中には前二・一千年紀の神殿祭儀の過程で朗唱された祈祷の文面を記した祈祷文書も含まれる。朗唱された祈祷には様々な種類があるが、シュメル語が口語として放棄され、セム語の一種であるアッカド語の諸方言が用いられていた前二千年紀以降においてもシュメル語の祈祷が極めて重要な役割を果たしていた。それらシュメル語祈祷の大半を占めるのが、エメサル（シュメル語で「繊細な言葉」の意）というシュメル語の変種によって綴られた祈祷、エメサル祈祷であり、少なくとも前二千年紀の初頭から前一千年紀の末期までこれらエメサル祈祷の文面を記した粘土板写本が作成された。当時エメサル祈祷は、バラグ、エルシェマ、エルシャフンガ、シュイラの四ジャンルに分類されていた。ただし、エメサル祈祷全体を占める四ジャンルの割合は平等ではなく、バラグ祈祷が三分の二以上を占めていた。これらバラグ祈祷は、その規模が他三ジャンルよりも遥かに膨大であるため、祈祷ジャンル全体の俯瞰は容易ではない。1988年に M. Cohen がバラグ祈祷全ての校定を発表しているが、一部の写本しか参照しておらず、文献学的な精度も満たしていないため、予備的な校訂に留まり、学界は個別バラグ祈祷の精密な校定を必要としている。

（２）このような新たに校訂されたバラグ祈祷文をはじめとする楔形文字諸資料に立脚した宗教史的研究の発表が期待されている。

２．研究の目的

（１）バラグ祈祷の一つである、マルドゥク神の祈祷『賢き主、顧問』（シュメル語本文、アッカド語訳、付記）を校訂する。

（２）関連する宗教史的諸問題を明らかにする。

３．研究の方法

（１）すでに収集した粘土板写本（未公刊を含む）を解読し、ローマ字に転写（翻字）する。解読した写本をもとに祈祷文を復元する。写本が欠損している箇所は、本文中の平行部分、あるいは他の祈祷文における平行部分を参考にしながら可能な限り補う。このようにして復元した祈祷文全体の翻字を整理することによって校訂を作成する。祈祷文の校訂は、写本を併記するスコア式で提示する。祈祷文を英訳する。文字と文法に問題のある箇所に注釈を付す。

（２）上の過程で校訂した祈祷文をはじめとする楔形文字諸資料をもとに、祭儀や神学など宗教史に関する個別課題の研究に取り組む。

４．研究成果

（１）収集した粘土板写本に基づき、祈祷文を校訂した。26 年度以降に単行本として出版する予定である。

（２）校訂した祈祷文をはじめとする楔形文字諸資料をもとにメソポタミア宗教史に関する個別課題に取り組み、その成果を国内外の学術会議等において口頭発表するとともに、複数の欧語論文に整理した。特筆すべき成果として次の研究がある。

　祈祷文編纂とその政治・宗教史的背景に関する研究：祈祷文校訂の過程で、『賢き主、顧問』が、別な神であるニヌルタ神に捧げられたバラグ祈祷と極めて類似していることが明らかになった。特に、祈祷文の最初のセクションは、古バビロニア時代（前二千年紀初頭）の粘土板写本から知られる同名のエルシェマ祈祷『賢き主、顧問』全文と「基本的に」共通している。古バビロニア時代エルシェマ祈祷『賢き主、顧問』は、付記によれば、ニヌルタ神の父エンリル神に捧げられた祈祷であるが、その文面は明らかにニヌルタ神に捧げられている。さらに、バラグ祈祷『賢き主、顧問』とエルシェマ祈祷『賢き主、顧問』に認められるこのセクションは、ニヌルタ神に捧げられたバラグ祈祷のセクションとしても確認できる。この三つの祈祷文を比較することにより、まず、ニヌルタ神のバラグ祈祷のセクションが古バビロニア時代エルシェマ祈祷『賢き主、顧問』の後代の版であること、一方、マルドゥク神のバラグ祈祷『賢き主、顧問』の第一セクションはこの祈祷文をニヌルタ祈祷からマルドゥク祈祷に書きかえることにより転用したものであることが明確になった。さらに、バラグ祈祷『賢き主、顧問』の他のセクションも多くがニヌルタ神の祈祷から転用されたものであることが明らかになった。一方、この祈祷には、ニヌルタ神以外の神々（特にエンキ＝エア神）に捧げられた祈祷との部分的な平行箇所も数多く確認できた。すなわち、このマルドゥク神の祈祷はニヌルタ神の祈祷を中核の「素材」として用いながら、他の主要な神々の祈祷文からも「素材」を収集し、それをマルドゥクの祈祷として編纂することによって成立していることが明らかになった。このような祈祷編纂を関連する他の資料と比較することにより、次の政治・宗教史的状況が浮かび上がった。ニップル市のニヌルタ神学を基礎としながら、あらゆる神々の権能をマルドゥク神に集合することにより、バビロンの新たなマルドゥク神学が形成された。またこれに合わせて新たなバビロンの祭儀プログラムも形成された。ニヌルタ神学とマルドゥク神学の関係、マルドゥク神学の「一神教」

的性格は先学によってある程度指摘されていたが、本研究は祈祷が朗唱された祭儀との関係性を明らかにした点で新たな知見をもたらした。

バイリンガリズムの問題：祈祷のシュメル語本文にはアッカド語訳が付されている。両者の対応関係を分析し、さらに、ほかのシュメル語・アッカド語バイリンガル文書、アッカド語ユニリンガル文書と比較した。まずアッカド語訳が単なる逐語訳ではなく、シュメル語本文の多様な解釈の試みであり、翻訳は多分に注釈としての性格を持っていることを明確にした（ただし、これ自体は先行研究もすでに指摘している）。特に、この多様な解釈には、現代のシュメル語文法理解からすると「荒唐無稽」とも言えるアクロバティックな解釈も含まれること、さらにこのアクロバティックな解釈に基づいて新たに作文したシュメル語文が本文に加えられていることを明らかにした。後者は新たな知見と言える。加えて、バイリンガル祈祷文書などの祭儀・神学文書に確認できるシュメル語単語のアッカド語「意訳」が、王の碑文にも用いられていることが明らかになった。シュメル語・アッカド語バイリンガル碑文だけではなく、アッカド語碑文にもバイリンガル文書特有のアッカド語単語が用いられている。さらに、ここにシュメル語・アッカド語バイリンガル祭儀・神学文書の知識を援用することにより、洗練された政治神学的碑文を作成する巧妙な技法を認められることも明らかになった。本研究はその具体的様相に関して新たな知見をもたらした。

他、研究の過程で取り組んだ楔形文字文書を基礎にして祭儀伝統に関する課題に取り組んだ。特筆すべき成果として、ニネヴェのアキートゥ祭における行進の研究、祭儀暦の研究、都市と守護神の研究があげられる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計７件）

①D. Shibata, “Die sumerischen exegetischen Epitheta des Marduk”, *Alter Orient und Altes Testament*, Ugarit-Verlag, 2014 (in press) 査読あり

② D. Shibata, “A Note on the Bilingual Inscription of Šamaš-šumu-ukīn, RIMB 2, B.6.33.1”, *Orient* 49, The Society for Near Eastern Studies in Japan, 2014, pp. 85–88 査読あり
DOI: 10.5356/orient.49.85

③D. Shibata, “The Origin of the Dynasty of the Land of Māri and the City-god of Ṭābetu”, *Revue d’assyriologie et d’archéologie orientale* 105, Presses Universitaires de France, 2011 (published in 2013), pp. 165–180 査読あり
DOI: 10.3917/assy.105.0165

④D. Shibata, “The Toponyms, ‘Land of Māri’, in the Late Second Millennium B.C.”, *Revue d’assyriologie et d’archéologie orientale* 105, Presses Universitaires de France, 2011 (published in 2013), pp. 95–108 査読あり
DOI: 10.3917/assy.105.0095

⑤A. Jacquet and D. Shibata, “The Month-name *quššu* in the Middle Assyrian Local Calendar of Ṭābetu and the Ritual Place/moment *quššum* in Mari”, *Nouvelles Assyriologiques Brèves et Utilitaires* 2010/4, Société pour l’Étude du Proche-Orient Ancien, pp. 88–89 査読なし

⑥D. Shibata, “Continuity of Local Tradition in the Middle Habur Region in the 2nd Millennium B.C.: The Local Calendar of Tābetu in the Middle Assyrian Period”, *Studia Chaburensia* 1, Harrassowitz Verlag, 2010, pp. 217–239 査読あり

⑦D. Shibata, “Ritual Contexts and Mythological Explanations of the Emesal Šuilla-prayers in Ancient Mesopotamia”, *Orient* 45, The Society for Near Eastern Studies in Japan, 2010, pp. 67–85 査読あり
DOI: 10.5356/orient.45.67

〔学会発表〕（計１０件）

①柴田大輔、「祈りと死語―シュメル時代後のメソポタミアにおけるシュメル語の祈り―」、「祈り」プロジェクト・第二回ワークショップ、筑波大学、2013 年 12 月 26 日

②D. Shibata, “The Scribal Practice in the Land of Māri During the Middle Assyrian Period”, Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the Second Millennium BC: Scribal Education and Scribal Tradition, University of Tsukuba, 2013 年 12 月 6 日

③D. Shibata, “Re-working the Emesal-prayers: Their Politico-theological Implication”, Sprachsituation und Sprachpolitik – Mehrsprachigkeit im Altertum, Universität Innsbruck, Zentrum für Alte Kulturen（オーストリア）, 2013 年 7 月 3 日[招待講演]

④D. Shibata, “Assyrian Princesses in the Land of Māri”, Symposium: Understanding Hegemonic Practices of the Early Assyrian Empire, University of Leiden（オランダ）, 2013 年 3 月 16 日[招待講演]

⑤D. Shibata, “The Akītu-festival of Ištar at

Nineveh: A New Bilingual Prayer", Assyrian Scribal Art: Assyrian Royal Inscriptions and Library Texts, University of Tsukuba, 2012 年 5 月 10 日

⑥柴田大輔、「古代メソポタミアにおけるニヌルタ神とマルドゥク神のバラグ祭儀歌」、日本オリエント学会第 53 回大会、ノートルダム清心女子大学、2011 年 11 月 20 日

⑦D. Shibata, "Local Middle Assyrian Rulers of Ṭābetu: Kings of the Land of Māri", Archéologies et Sciences de l'Antiquité, CNRS-University UMR 7041, Nanterre（フランス）, 2011 年 3 月 29 日[招待講演]

⑧D. Shibata, "The Toponym 'Land of Māri' along the Habur through Ages", Table-ronde du projet franco-japonais «Sakura», Collège de France, Paris（フランス）, 2011 年 3 月 23 日

⑨D. Shibata, "Timing a Divination to Ask about Ilī-padâ's Illness", Table-ronde du projet franco-japonais «Sakura», Tsukuba International Congress Center, Tsukuba, 2010 年 10 月 10 日

⑩D. Shibata, "The Chronology and Genealogy of the Local Middle Assyrian Dynasty of Ṭābetu", 56e Rencontre Assyriologique Internationale, Universitat de Barcelona, Barcelona（スペイン）, 2010 年 7 月 27 日

〔図書〕（計４件）

①D. Shibata, "Assyrian Princesses in the Land of Māri", in: B. Düring et al. (eds), *Hegemonic Practices of the Middle Assyrian Empire*, Nederlands Instituut voor het Nabije Oosten: Leiden 2014 (in press)

②柴田大輔 編、『楔形文字文化の世界』、聖公会出版、2014 年 3 月 19 日、224 頁

③H. Numoto, D. Shibata, and S. Yamada, "Excavations at Tell Taban: Continuity and Transition in Local Traditions at Ṭābatum/Ṭābetu During the Second Millennium B.C.", in: D. Bonatz and L. Martin (eds), *100 Jahre archäologische Feldforschung in Nordost-Syrien – Eine Bilanz*, Schriften der Max Freiherr von Oppenheim-Stiftung 18, 2013, Harrassowitz Verlag, pp. 167–179

④D. Shibata, "Local Power in the Middle Assyrian Period: The 'Kings of the Land of Māri' in the Middle Habur Region", in G. Wilhelm (ed.), *Organization, Representation, and Symbols of Power in the Ancient Near East*, *Proceedings of the 54th Rencontre Assyriologique Internationale, 20–25 July 2008*, Eisenbrauns, 2012, pp. 489–505

６．研究組織
(1)研究代表者
柴田　大輔（SHIBATA, Daisuke）
筑波大学・人文社会系・准教授
研究者番号：40553293